ふれあいネットワーク

なんぶ 社会福祉だより

令和２年12月

64

南部町社会福祉協議会
本　　所　〒683-0351 法勝寺331-1　TEL 0859-66-2900
会見支所　〒683-0227 浅井938　TEL 0859-64-3515

令和２年度
南部町社会福祉協議会会長表彰

▲ご出席いただいた受賞者のみなさま

令和２年度の南部町社会福祉協議会会長表彰は、表彰及び感謝状合わせて個人３２名が受賞されました。

１１月２６日、「総合福祉センターしあわせ」にて、表彰・感謝状の授与と記念品の贈呈を行いました。

永年に亘る社会福祉・ボランティア活動等、地域の福祉活動にご尽力いただきましたこと、心より感謝申し上げます

２ページに続きます。

◇社会福祉施設・団体職員功労者◇

（敬称省略）

所　属	氏　名
社会福祉法人伯耆の国	梅原美弥子
社会福祉法人伯耆の国	秦　扶美子
社会福祉法人伯耆の国	井上　英樹
社会福祉法人伯耆の国	森脇知佐恵

◇ボランティア・福祉活動功労者（個人）◇

（敬称省略）

所属役職名	氏　名
南部町赤十字奉仕団	吉田　英明
南部町赤十字奉仕団	陶山　節子
会見調理ボランティアグループ	持田　絹子
会見調理ボランティアグループ	石上　睦子
会見調理ボランティアグループ	藤原三由紀
会見調理ボランティアグループ	小林　京子
会見調理ボランティアグループ	六宮　恭子
会見配達ボランティア	小林さき江
会見配達ボランティア	雑賀　憲史
会見配達ボランティア	板持　　秀
会見配達ボランティア	妹尾　早苗

◇ボランティア・福祉活動功労者（個人）◇

（敬称省略）

所属役職名	氏　名
西伯調理ボランティア	川上万記子
西伯調理ボランティア	景山　律子
西伯調理ボランティア	吉村　節子
西伯調理ボランティア	原　はる代
西伯調理ボランティア	西本　秀子
西伯調理ボランティア	佐藤美知子
西伯調理ボランティア	阿代田正子
西伯配達ボランティア	持田　朝代
西伯配達ボランティア	吉持　義昭
西伯配達ボランティア	石倉　行光
西伯配達ボランティア	原　　和正
西伯配達ボランティア	前田　愼三
西伯配達ボランティア	奥山　俊二
西伯配達ボランティア	青木　　教

◇感謝（社会福祉協助者）◇

（敬称省略）

所　属	氏　名
NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ	板　　真悟
NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ	亀尾　由紀
NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ	石田　美奈

コロナ対策補助金を受けて、配食サービス事業の感染対策を強化しました。

先の見えないコロナ禍ではありますが、ひとり暮らしの高齢者の方などの見守りを目的とした配食サービス事業は継続する必要があると考えています。

ボランティアの皆様にはご負担に感じるところもあると思いますが、感染対策にご協力いただきながら活動していただいています。

非接触型ソープディスペンサーで手洗い

非接触型体温計で検温

ボランティア全員にマスク、
携帯用アルコールスプレーを配布

非接触型噴霧器でアルコール消毒

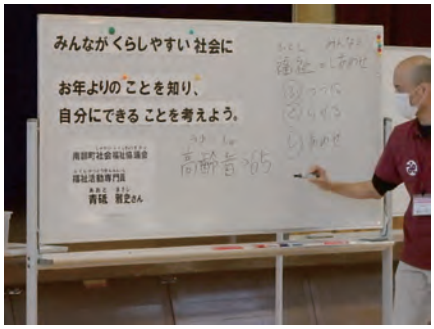
助け合いマスクキャンペーン

ご家庭で使用されないマスクを必要としておられる方に有効に活用していただこうと、未使用のマスクを回収しています。
町民の皆様のご協力により、約７００枚のマスクが届けられました。ありがとうございます。
つきましては、この「助け合いマスク」が必要な方は、社協までご連絡ください。なお、無くなり次第終了となりますのでご承知ください。

福祉教育に取り組んでいます

出前講座

学校のご協力により、出前講座を実施しています。今年度は西伯小学校と会見小学校へ出かけ３年生を対象に「高齢者の理解」をテーマにお話しさせていただきました。



児童の皆さんから感想文をいただきました。「お年寄りの大変さを知れた」「自分でもお年寄りの人にできることがあったらしてあげたい」というようなことが書かれており大変うれしく思いました。

今後も継続していきたいと思います。

ペットボトルキャップ回収事業

リサイクルの促進や障がい者・高齢者雇用の促進などを目的として活用されるペットボトルキャップを、福祉教育の一環として学校や町内各所で回収しています。

赤い羽根共同募金
助成事業 PICKUP

一時的に食料支援が必要な方のために非常食を購入しました。
災害時にも活用します。

配食サービス事業でお弁当の配達をして下さるボランティアさんのベストを購入しました。

NEW 貸出　物品・レクレーション用品

ミスト扇風機

屋外イベントで
大活躍

工業用扇風機

暑さ対策
空気循環に

スマイル射的

輪ゴムを使い
本格射的

ダーツセット

スマホに接続可
ゲーム多種

お問合せ先：南部町社会福祉協議会　66-2900

子育て応援！

子育て応援の一環として、子ども服リユース譲渡会を令和２年10月１日、総合福祉センターしあわせ会議室で開催しました。

コロナウイルス感染対策として、予約制により30分１組ずつ入室していただく形で実施しました。

事前にたくさんの子ども服などを提供いただいており、譲渡会参加の皆様には大変好評でした。

ご協力いただきありがとうございました。

南部町社会福祉協議会では引き続き **子ども服リユース**　**制服リユース** 事業を行います。ご家庭で役目を終え誰かに使ってもらいたい子ども服、子ども用品、マタニティ用品、中学校の制服などご提供くださいますようお願いいたします。

担当者【吉元】メール
honsho05@nanbush
akyo.com

災害時における支え愛
地域づくり推進事業(支え愛マップ)
事例紹介

上阿賀区

当日の様子

マップ作りを行ってみて

異常気象が起こす近年の災害は想像以上のものがあります。また、被害も目を見張るものがあります。だからこそ、災害対策は急務です。私がこの支え愛マップ作りに取り組むきっかけとなったのは、集落防災会議で町から防災対策の指導、助言を仰ぐ講演を聞いたからでした。内心なぜ今マップを作るのか、本当に防災に役立つのだろうか、単なる机上の空論に終わってしまうのではと半信半疑でした。やがてその疑問はマップ作りをしていく過程で自ずと解決していきました。災害時の避難誘導をどうするか、要支援者はどんな人がいるのか、日常からの見守り・声掛け等は誰ができるのか、それ以外にも様々な課題が出てきました。他にもマップ作りというツールを通じて、普段思っていること、気付いていなかった点を共有できたり、安全と思っていた場所が危険であったり新たに現状を再確認することができました。案外集落のことは分かっているようで分かっていないことが多いものです。災害が起こってからでは取り返しがつきません。いざという時に備えて普段から皆で意識改革や意識を共有することこそ必要です。私たちの集落での防災対策は今始まったばかりです。今後も支え愛マップをより充実させ、実践訓練を重ねながら安心、安全な地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

上阿賀区長　寄田　憲文

法勝寺５区

マップ作りを行ってみて

数年前に支え愛マップ（兼防災マップ）を作成し、「支え愛地域づくり推進事業」の補助金で区の防災備品を購入し、それから年に１度は訓練や勉強会などを通して防災への意識向上に努めてきました。

この度、マップの見直しを進めるにあたり、区の皆さんで改めて５区の現状と危険箇所などマップ上で確認しながら話し合いをしました。この数年で家族構成も変わり、それぞれ年を重ねてきたことで以前にも増してお互いの助け合いの重要性を感じています。

今後もこのような機会を設け、有事の時に「共助」が発揮できる区でありたいと思います。

法勝寺５区長

当日の様子

取り組み初年度７５，０００円、２年目１００，０００円の補助金で避難行動や避難所運営に係る備品を購入することができます。
令和３年度のご相談も受け付けています。
詳しくは南部町社会福祉協議会(TEL６６-２９００)
担当：小林までお気軽にお問い合わせください。

ありがとうございました

（令和２年９月11日から令和２年11月10日受付まで）

頂戴しました寄付金は、地域福祉委員の活動費・いきいきサロン活動助成金・地域振興協議会への助成金・福祉バス運営経費・配食サービス事業など福祉活動の財源として活用させていただいています。

香典返し

（敬称は省略させていただきました。）

寄付者名	集落名	故人名	金　額
藤田　勝美	与一谷	輝雄	金一封
加島　美恵子	円山	一光	金一封
青砥　英和	上鴨部	紘子	金一封
市川　健人	天萬７番組	典春	金一封
三谷　信子	東西町１区	繁	金一封
秦　啓郎	上阿賀	信江	50,000
大塚　茂樹	清水川	一夫	金一封

寄付者名	集落名	故人名	金　額
吉持　佐知子	田住	彰英	50,000
藤原　秀樹	福里	五三	金一封
板　智明	江原	清子	金一封
潮　知明	天萬２番組	百合子	金一封
遠藤　義徳	宮前一	弘議	金一封
成田　壽郎	原	八重子	金一封

◎ご寄付の際に、広報紙への掲載を同意された方のみ載せています。
◎寄付金額等の記載につきましては、寄付者ご本人の意思によるものです。

編集後記

人生１００年時代

平均寿命は２０１８年の段階で男性が８１，２５歳、女性が８７，３２歳、男性は７年連続、女性が６年連続平均寿命を更新している。このペースで伸び続けると、１００歳を超えるまで生きるのもそんなに珍しいことではなくなりそうです。そこで、人生１００年時代を幸せに生きる方法を考えなければいけない。

高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要がある。その重要な鍵を握るのが、人づくり革命＝人材への投資である。『幼児教育の無償化』『待機児童の解消』『介護人材の処遇改善』『高齢者雇用の促進』等の政府主導の取り組みが急務である。

これまでは、『定年＝引退』を考えるのが日本人のスタイルでしたが、人生１００年時代に対応するために、生涯にわたって働くことのできる環境が構築されることが必要である。

２０１９年厚生労働省は、全国の１００歳以上の人口は７１，２３８人と発表しています。これは49年連続で過去最高を更新しており、年々増加しているのです。つまり、『人生１００年時代』は既に始まっているといっても過言ではない。其の為にも私たちは、その時代に対応出来るように健康寿命を延ばす努力が必要ではないでしょうか？

（S・M）